日刊留萌

2009年（平成21年）11月3日（火曜日）

切り倒された跡が現在も生々しい通信用の電柱を見る参加者たち

今年は4キロを復元

増毛山道の会が徒歩で確認

道沿いに明治期の三角点

【増毛】町別苅地区と石狩市浜益地区を結ぶ増毛山道（全長約三八キロ）の復元作業に取り組んでいる増毛山道の会（伊達東会長）は、十月三十一日午前八時から掘り起こし記念散策会を開き、伐採作業で復元した増毛山道約四キロ、山道と岩尾地区を結ぶ旧道約一・三キロの二カ所合わせて五・三キロを実際に歩いて復元状態を確認し、今年の作業を終えた。

増毛山道の会は、地元や留萌市、札幌市、石狩市などに住む有志が二十年十二月に組織した。設立の目的は、増毛山道の復元が中心。山道跡地の私有林所有者の許可を得て、今年九月から会員たちがボランティアで伐採作業を行っていた。

この日の記念散策会には、会員たちと増毛山道の復元に関心を持つ留萌支庁山の会、増毛山岳会、留萌山岳会などの会員合わせて十七人が参加した。

開会式では、伊達会長が会員たちの努力に感謝し、留萌森づくりセンターの新林弘志所長は「将来、この道を利用させてもらう機会があるかもしれません」と述べた。

開会式後、参加者たちは復元した山道と作業道が交わる標高四百㍍の散策開始地点まで車で移動したあと、道有林との境界がある伐採到達地点まで徒歩で上った。

境界周辺では、かつて国道に準じる産業道路だったことを証明する水準点を発見する調査が行われ、参加者たちも協力したが発見できなかった。

このあと、集合場所まで下りながら散策を続け、昭和二十年代まで使用したあと切り倒された複数の通信用の電柱跡、約三十年前に増毛山岳会が冬期間スキー利用者の目印として設置した連番標識、明治年間に国土地理院が設置した三角点などの遺物を確認した。

この日の散策コースは、林道や伐採作業道が複雑に交差しているため、一般の無許可見学は道に迷う可能性が高く、危険な状態となっている。増毛山道の会は「将来、標識などを設置する計画もあります。準備が整うまでの間、一般の方は山道に立ち入らないでほしい」と注意を呼びかけている。